ご縁や出会いを大切に、チャンスを自分の成長に

児童教育学科３年　齋藤真里奈

１．コロナ禍で始まった大学生活

ふり返れば、1、2 年次はコロナ禍で様々なことが制限され、入学前に描いていた大学生活とは異なるものでした。そんな中でも、出会いやご縁を大切にすること、チャンスは逃さないことを意識して過ごしてきました。

２．課題解決ゼミナールの受講

まず、取り上げたいのが、様々なことに取り組む姿勢と行動力の重要性を気づかせてくれた「課題解決ゼミナール」の履修です。当科目を通した出会いと経験が私を大きく成長させてくれました。2021 年度から開講の本科目。科目名称とシラバスに興味を持ち受講を決めました。こちらの授業ではチームビルディングについて学びながら、学生が課題解決に取り組みます。

私たちは、コロナ禍で友人を作ることに苦戦したことから、１、２年生を対象に、オンラインで楽しむことのできるイベントを企画しました。活動当初は、メンバー間に距離を感じていましたが、外部講師である「ラーニングバリュー」さんにご指導いただきながら、理想とされるメンバー同士の関わりを理解していきました。私は特に役割をもっていなかったのですが、役の有無に関わらず積極的に参加することが大切であると学んだため、スケジュール管理を中心に働きかけを行いました。授業外ミーティングの日程調整やイベント当日までのタスクを整理し、滞りなく準備が進められるよう努めました。「誰かがやってくれるのを待つ自分」ではなく「気づいたら率先して動く自分」に変わることができたと思います。

イベント当日は、留学生とともに司会を務めました。進行用のスライド作り・台本作りなど不慣れなことが多かったのですが、できる限りを尽くしました。チームビルディングを学んだおかげで、全員が任務に責任を持ち、同じゴールに向かうことができました。イベントの企画から運営までを行うことは決して簡単ではありませんでしたが、達成感を得ることができました。

この授業を終えてから、ラーニングバリューさんからインタビューを受けました。現在、企業ブログで、私がこの授業で学んだことのインタビュー記事が掲載されています。
https://odlabo.wixsite.com/lv-od/post/jgj03-01

３．地域活動に参加

課題解決ゼミナール受講のご縁から、大学マスコットキャラクター「プラスちゃん」とともに地域活動を行う「プラスちゃんくらぶ」に参加することになりました。くらぶ内には複数のプロジェクトがあります。私は、学科の学びを活かし、小学校で必修化となったプログ

ラミングを子どもたちに教える「プラぐらみんぐ隊」と SDGs を広める「プラスちゃんと学ぼうプロジェクト」で活動することを決めました。

「プラぐらみんぐ隊」では現在、プログラミングのワークショップを行っています。今年度は既に和光市の広沢小学校、さいたま市の仲町小学校で実施しました。リーダーとして、イベントの進行をするだけでなく、イベントの進め方や子どもへの関わり方について記したマニュアルを作り、プログラミングや子どもとの関わりに苦手意識を持つメンバーにも配慮しています。

「プラスちゃんと学ぼうプロジェクト」では、アドバイザー的立場として、活動についての助言やサポートをしています。ミーティングの参加率が芳しくない時には、さりげなく声をかけています。

最近では、プロジェクト同士の隔たりをなくして活動したいという思いから、「プラぐらみんぐ隊」と「プラスちゃんと学ぼうプロジェクト」を「教育」というくくりにした合同プロジェクトにしました。これにより、新たな交友関係が生まれ、活動の幅が広がり、新たなアイデアが生まれると期待しているところです。

また、単に活動で終わらせることなく、私たちの活動を周知することにも力を入れています。一例を挙げると、4 月に志木市で行われた「いろは SDGs の会」への参加です。SDGs という同じテーマであっても団体によって取り組みが異なるため新たな発見も多くありました。12 月には TJUP のイベントで私たちの取り組みを紹介するので、そこでも新たな出会い、学びがあると思っています。

こうした一連の活動により、活動を振り返り、そこで得たものを他者と共有することで、次に繋げていくことができるのだと感じました。今後も活動を続けていくことはもちろん、その中での得た気づきや学びにも向き合う時間を大切にしていきます。

４．子ども大学しきへの参加

課題解決ゼミナール受講のご縁で、「子ども大学しき」のサポートをすることになりました。「子ども大学」では、子どもの知的好奇心を刺激する講義や体験活動を行います。私を含む有志 2 名で、募集チラシと入学記念となる「顔出しパネル」を作成しました。

私たちは得意なことが異なっていたので、それぞれの特技を活かしつつ、苦手な作業を補い合うことで活動を進めました。ここでも課題解決ゼミナールで学んだチームビルディングを活かすことができました。私が担当したのは「募集チラシ」のデザインです。講義内容である「南極」をイメージし、なおかつ子どもが興味を持ってくれるようなデザインにしました。

限られた時間の中でやるべきことの整理とスケジュール管理を徹底して行ったことで、余裕をもって準備を終えることができました。「子ども大学しき」当日は、顔出しパネルでの写真撮影をサポートしたり、運営の補助をしたりしました。運営の補助は予定にはなかった活動でしたが、周りを見ながら柔軟に動きました。

５．ＴＪＵＰ（埼玉東上地域大学教育プラットフォーム）への参加

他大学学生との繋がりを持つきっかけとなったのが TJUP への参加です。本大学の地域連携推進課からの募集を見て興味をもったことが参加の決め手となりました。

初めに参加したのは、東松山市での「クリーンウォークイベント」です。様々な大学のメンバーで構成されたグループに分かれ、歩きながら清掃活動に取り組みました。珍しい部活の話を聞いたり、所属学科の学びを紹介しあったりと充実した時間を過ごすことができました。

次に、就職活動を意識した「オンライングループディスカッション講座」にも参加しました。早い時期から就活に目を向けることのできる機会に出会えたことで、本格的になってきた就職活動にも前向きに取り組むことができています。

ＴＪＵＰへの参加は、大学内に留まらない人間関係を築くきっかけとなりました。また、以前はとても人見知りをする性格でしたが、「初めて」を経験できる環境に自らを置く機会を増やしたことで初対面の方と打ち解けるのが早くなったと思います。自分の興味や意欲は行動に移してこそ、成長へと繋がるのだと分かりました。

６．充実したゼミ活動

私は、高校生のときに、地域活動を専門とし積極的に活動をされている先生がいることを知り、本学への入学を決めました。現在は念願が叶い、その先生のゼミに所属しています。

パントリーの開催や親子の居場所づくりをメインとした活動を定期的に行っています。夏休みには、大学の施設や市内の自治会館を利用して、夏休みの宿題応援隊を実施しました。開催を喜んでくださる子どもたちや保護者に接したり、感謝の言葉をかけていただいたりした際にやりがいを感じました。

活動と並行して、活動を発表することも度々あります。発表する機会があることによってメンバー全員で、一つ一つの活動について細かく振り返る時間を取ることができます。先日は、活動団体が発表する場の企画や運営も行いました。その一つが本学で開催された「学生こども食堂ネットワーク全国大会」です。実行委員長として、運営の仕方や進め方について意見を出し、よりよいイベントとするために何度も話し合いを重ねました。

そして、これらの活動は、メディアでも取り上げていただきました。ウクライナ支援として行ったアート展（参加者の手形でひまわり畑を描くもの）、十文字の森を使ったプレーパークの予告に関して取材を受けました。

より多くの方に自分たちの活動を知っていただけることが何よりもうれしいです。今後も自分たちが活動を楽しむ姿勢を忘れず、多くの人にとって必要とされる活動を継続的に行っていきます。

７．活動を通して

これまで関わってきた全ての活動、学びに共通していることは、PDCA サイクルを欠かさず行っているということです。どんなに小さいことや短い時間での活動であっても振り返る時間を作っています。反省から次時にどう繋げていくかを思考し、行動に移すことで初めて成長するのだと実感しています。3 年生となり、後輩と関わる機会も増えました。今は、私が学んできたことを後輩につなげることも意識しています。

「私らしく輝ける未来」を目指し、何事に対しても挑戦する気持ちを持つことと、物事を積み重ねていくことを今後も大切にしていきます。そして、出会いやご縁を大切にすること、いただいたチャンスは逃さないことを心に留めて人生を歩んでいきます。